

「柏崎の橋」

20 新猿飛橋・猿飛橋（谷根）

谷根は柏崎市の西、米山の東麓に位置する谷あいの地区である。豊かな自然と数々の文化的資産を今に伝え、昭和48年に谷根ダムが完成すると、柏崎の水源として注目されるようになった。

地区を流れる谷根川は上流にはイワナやヤマメが生息する清流で、河口付近では鮭の放流が行われている。米山山系から日本海に注ぐ急流であることから、小規模ながら明治時代には水力発電所もつくられていた。

新猿飛橋はこの谷根川上流、谷根ダムから数百m下ったところに位置し、昭和49年5月19日竣工、渡り初めが行われた。橋長33m、幅2m。川床までの高さ23m、総工費732万円。「谷根川山峡を望む絶景」と当時の新聞にある。また、橋は谷根川の「大滝の真上」と「谷根」に記述されているが、樹木の枝葉にさえぎられ望めなかった。橋名の銘板は当時の「小林治助市長の揮毫」とあるが現在橋の付近には見当たらない。

この橋の前身、「猿飛橋」は木橋で、長らく米山登山の登山客や地域の山菜採り、あるいは炭焼きなどの人々が往来したものであろうが、谷根ダムの建設にともない水没、400mほど下流に新しい橋を建設したものである。名称の由来は定かではないが、猿が飛ばねば越えられないような深い谷や急流であったことによるものであろう。

霊峰米山にはほぼ東西南北に登山道が拓かれているが、猿飛橋は新旧ともに東の登山道谷根口の起点にあたる。登山口となる橋が移動したことから、登山道もおよそ700mにわたって整備されたという。

新猿飛橋付近の道路わきに四体の石仏が安置されている。この石仏はもともと谷根地区を見下ろす山の上にあったというが、ダム建設による橋の架け替え、登山道の付け替えなどにより、現在的位置に移動したという（「米山の水」）。村の安全と豊穰を見守ってきた石仏が、今は柏崎市民の水源と登山者の安全もあわせて静かに見守っている。

なお、谷根については、柏崎市ガス水道局と水道行政に多大な功績のあった故月橋■氏が多数の資料を発刊し、ダム建設の経緯はじめ、谷根の歴史、文化、民俗、自然など幅広い貴重な記録が残されている。月橋氏をはじめとする水道関係者の並々ならぬ谷根への思いが伺える。



上：現在の新猿飛橋 左に登山口の看板

下：四体の石仏

- 参考にした本
米山の水（518 K 加） 柏崎市ガス水道局
谷根 ダム・自然・文化（292 K 加） 柏崎市ガス水道局
柏崎日報、越後タイムス